



STOP!! 消費者トラブル

生活環境課 (内線172)

新生活が始まる時期、注意したい消費者トラブル

5

契約時に注意したい5つのポイント

1. 契約するかどうかの判断は慎重に
 2. ローン (借金) はよく考えて
 3. ネット通販は事業者・内容を事前にチェック
 4. 知らない人の SNS 情報は確認をしっかりと
 5. エステや美容医療を受けるときはよく考えて
- 消費生活相談の窓口は、お住まいの県や市に必ずあります。不安に思うことがあればすぐに相談し、素敵な新生活をスタートさせてください。

消費者トラブル ひとりで悩まず すぐ相談
消費者ホットライン ☎188(いやや)

3月は新生活を控え、契約を結ぶ機会が多くなる時期です。どの契約も後々トラブルにならないためには、契約前にしっかりと契約書を読んで内容を確認し、検討することが大切です。

例えば賃貸借契約。退去時に退去費用のトラブルが多く発生します。トラブル回避のためには、入居時に大家などの立ち会いのもと部屋を確認し、傷や汚れを見つけたら写真を撮るなど証拠を残す対策をしましょう。

通販で生活用品の準備をすることがあると思います。通販は購入前に現物を確認できません。サイズや規格、返品特約を必ず確認しましょう。また、配達されることが前提なので、納期にも注意が必要です。天候や交通障害などのリスクがあります。必要ならば事前に業者に確認しましょう。



ようこそ手話の世界へ

これまでに紹介した手話写真の動画を見ることができます。



福祉課 (内線217)

ろう者は語る ～手話で広がった世界～

生まれつき「ろう」ながら、私は中学生まで、手話を知らない世界で必死に発音訓練をしていました。当時の社会では「障がい者本人が頑張るべき」という考え方がありました。「聞こえない人は、聞こえるようになって話せるようにならなければならない」という空気の中、私自身も「わずかな音でも聞いて話せた方が良い」と思っていました。しかし、高校生でろう学校へ入学してから毎日、ろう者同士のコミュニティの中で、見よう見まねで手話をする中で、相手の話が理解できるようになってきました。私の言いたいことが「通じる!」という喜びは大きかったです。それからは、手話を知ることでさまざまな世界が広がりました。「百パーセント分かり合える言語は手話だ」と確信しました。

聞こえなくて良かったことがたくさんあります。それは、多くの優しさに出会えたこと、社会のさまざまな壁に気付けるようになったことです。聞こえない人でも、楽しい生きやすい社会を、これからみんなで考えていけたらと思います。

かんたん手話講座 夕方5時には暗い

「夕方」 「5時」

開いた手を下ろす 手首を指す 4指を曲げる

「暗い」

開いた両手を交差しながら閉じる



人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

まちづくり推進課 (内線311)

コロナ禍で生じた差別 ～差別・偏見に気付こう～

新型コロナウイルス感染症は発生から2年以上たった現在も全世界で感染は収まっておらず、私たちの生活様式を一変させました。そして、感染者やその家族、医療従事者をはじめとする感染リスクの高い方への誹謗中傷、他県ナンバーへの嫌がらせなど、さまざまな形で「コロナ差別」という新たな人権問題を生み出しました。最近では、ワクチン未接種者への差別も問題視されています。

見えないウイルスに対する不安、家族や友人など大切な人を感染から守りたい、と思う気持ちは誰も同じです。しかし、根拠のない思い込みや過度な恐怖心は差別や偏見を生む原因となることがあります。自分の発する何気ない一言が、無自覚に人権侵害につながることを忘れないようにしましょう。

正しく恐れるために

新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識・情報は日々新たにされています。SNSなどの書き込み情報をそのままのみにするのではなく、公的機関が発する信頼できる最新情報により、感染症を正しく恐れ、冷静に行動しましょう。

《参考サイト》
厚生労働省「新型コロナウイルス感染症について」



コロナ差別に悩んだときは

法務省の人権擁護機関では、新型コロナウイルス感染症に関連する人権相談を受け付けています。ひとりで悩まずご相談ください。

みんなの人権110番
(全国共通人権相談ダイヤル)
0570-003-110 平日8:30~17:15

インターネット
人権相談



ひとりひとり自分らしく 個性と個性が生み出す調和

ハーモニー

まちづくり推進課 (内線311)

アンコンシャス・バイアス

血液型がA型だから真面目に違いない
高学歴だから仕事もできる
外国人は出稼ぎなどで一時的に日本に滞在している
男性なら出世したいと思うのが当たり前
年配の人はパソコンを使いこなせない

「あの人は○○だから○○だ」「私は○○だから○○だ」などというように自分なりの解釈をしてしまうのが「アンコンシャス・バイアス」です。日本語に訳すと「無意識 (unconscious) の偏ったモノの見方、偏見 (bias)」という意味です。

人は誰でもアンコンシャス・バイアスを持っていきます。過去の経験や情報などから自然に培われるもので、持つこと自体が悪いわけではありません。持っていることで、物事を迅速に大枠で判断することが出来ます。ただ、自分の持っているアンコンシャス・バイアスに気付かずにいると、無意識のうちに答えを決め付けてしまったり、知らず知らずのうちに相手を傷つけたりすることがあります。

例えば、職場において性別で任せる仕事を決めると、その人の成長を妨げたり、やる気や自信を失わせてしまったりする可能性もあるでしょう。個人のパフォーマンスが低下することで、組織にダメージを及ぼすことにもつながります。

アメリカのオーケストラでは、採用試験の際に性別や年齢、国籍などのアンコンシャス・バイアスを排除するため、応募者と審査員の間にスクリーンを置き、誰が演奏しているか見えない状態にして審査した結果、女性の採用比率が倍増したそうです。

アンコンシャス・バイアスを意識することで、一人一人が尊重され、活躍できる社会に近づくこととなります。まずは自分の持っているアンコンシャス・バイアスに気付くことから始めましょう。